



# The moment of mjuk!

—あなたが輝く時間を、mjukと呼びます—

趣味の欄に「掃除」と書いた。  
また少し、嬉しくなった。

きっかけは小さな出会いからだった。

雑貨屋さんの片隅に

すっと潔く立っていた箒。

心がドキンとする出来事だった。

母でさえ、箒を使う年代ではなかった。

けれど、いや、だからこそ

その静かで丁寧な仕事は私を夢中にさせた。

手に取ればすぐに使える。電気もいらさない。

サツサツと小気味良い音を立てながら、

床がピカピカになっていくのは

棕櫚の持つ天然油分のせいらしい。

ちりとり、はたき、雑巾、手箒…

以来、お気に入りの道具が増えている。

使い勝手の良いものは、いつも決まって美しい。

堂々とした面持ちで、我が家を彩るインテリアだ。

毎日面倒だった掃除という家事が

私の趣味の時間に変わった。

家と、暮らしを愛することが

今、嬉しくってたまらない。

